

各は原則、税込表示です。

は25〜50インチ用で、耐荷重は35キログラム。「1000-PL022」は32×70インチ用で、45キログラムまで対応している。

「1000-PL021」のサイズは幅2200×奥行56×高さ2200ミリメートル。重さ620キログラム。「1000-PL022」は幅4200×奥行56×高さ4200ミリメートル。重さ1・2キログラム。

販売会社会議に100社が参加

水溶性珪素の原料メーカーであるAPAコーポレーション(エーピーエー)が、本社愛知県岡田憲己社長、(0566-931-1100)は2月1日、年初恒例の販売会社会議を、名古屋の名鉄グランドホテルで開催。約100社が参加した。水溶性珪素「umo(ウモ)」に関するヒト試験の結果を、年内に論文を学術誌に投稿する予定であることを報告。ウモについて「非晶質証明書」を取得したことも発表した。新製品

約40人の医師・学識者で構成される日本珪素医療研究会(事務局東京都)では、さまざまな症例報告がなされていることも紹介した。ヒトだけでなく犬・猫を含め動物の症例報告が増えていることも明らかにした。

学会新斗



愛知医科大学の先制・統合医療包括センターの福沢嘉孝教授兼センター部長による、ウモのヒト臨床試験が、順調に進んでいることについても報告。「データ解析が終わって論文を現在執筆中だ。年内には投稿ができる見通しになっている」と話した。

「1000-PL021」の誤った情報を提供するサイトが散見されることも報告した。粉末原料「ウモ ミクロンパウダー」について

大幅に上回ることを期待できる製品だ」などと話した。中島敏樹氏は「生体マトリックスの水」について講演。「水には、普通の水である自由水と

生体のタンパク質にまわりつく『結合水』がある」と説明。その上で「生体マトリックスの水には、生体のリズムを整える働きが期待できる」などと話した。

日本珪素医科学学会の理事長を務める樋口真弘医学博士

莫合昌之名譽教授が「珪素化学から珪素薬理のPOC取得に向けて」をテーマに講演。「水中の珪素化合物の状態は千変万化」などと話し、より詳細な研究を今後進めていく必要性を訴えた。

中島敏樹博士らが講演

学術発表会に約180人が参加

珪素に関する学術研究を推進する日本珪素医科学学会(事務局東京都)は2月1日、第11期総会と第37回学術発表会を名古屋の名鉄グランドホテルで開催。水溶性珪素関連のヒト試験に携わる約180人が参加した。学術発表会では、同会の副

会長を務める菅野光男医学博士や、水の波動特性研究家の中島敏樹理学博士が講演を行った。海外からは、台北医学大学口腔医学院院長の歐耿良氏が参加し、講演した。

台湾の歐氏は、樋口理事長とともに登壇。歯科治療における珪素の有効性が確認されつつあることを、さまざまなデータを基に報告した。欧氏は「科学は皆が使う中でデータを集めることが大切。皆で珪素を使いデータを集めてほしい」と呼びかけた。

同会終了後の懇親会では、主催のAPAコーポレーションの岡田憲己社長と、愛知医科大学の先制・統合医療包括センターの福沢嘉孝教授兼センター部長があいさつ。福沢氏は「現在進めている、水溶性珪素を使った臨床試験の進捗状況を報告した。すでに統計解析は終了した。今夏までに発表できれば一番良いのではないか」との考えを示した。

「生体マトリックスの濃縮溶液」についても、同様の証明書を取得していること話した。

ウモと他の珪素製品との比較表も提示。ウモの特徴として①GMP認定工場で製造②多様な有効性データを取得③安全性データが充実④五つの大薬と連携⑤化粧品INCI(インキ)登録済みなどを挙げた。

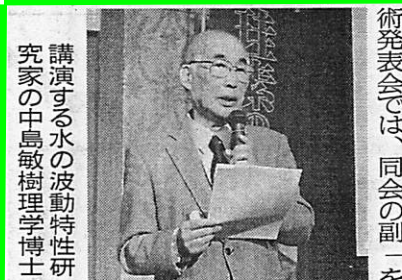
珪素について、自社の製品購入に誘導するため

同会では「生体マトリックスumo」の販売を開始することも発表された。同製品には、水の波動特性研究家の中島敏樹理学博士らが研究を行う「生体マトリックスの水」が使われているのだという。「この水はマイナス50度でも凍らないという特殊な性質を持っている」などと説明した。

続いて、lifepark.biz(本社東京都、渡部裕也社長)の金子昭伯会長が登壇。新発売の「生体マトリックスウモ」について触れ、「特殊な水を使って製造しており、従来のウモを

「老化・病気の第一原因は含水率だ」などと話した。「水は自由水と結合水で構成されている」とし、「生体マトリックスの水」が重要との考えを示した。珪素と水の関係にも触れ、両者の重要性を説いた。

次に、岐阜薬科大学の



講演する水の波動特性研究家の中島敏樹理学博士

菅野氏は学術発表を受けた。

は、勇壮な太鼓の演奏があったほか、喜劇俳優の大村崑も登壇。会場は大いに盛り上がった。